

会 報

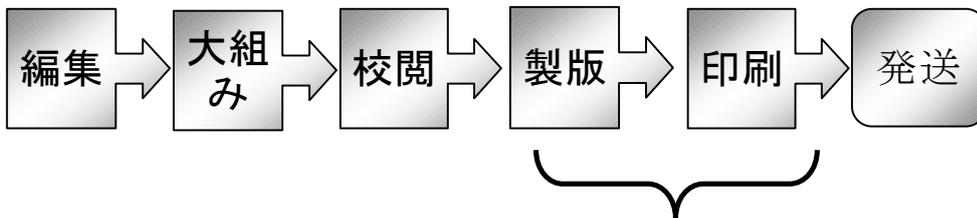
静岡県技術士協会 S C E A Shizuoka Consuluting Engineers Association
事務局連絡担当 齊藤 和夫 TEL/FAX 053-587-3438

会長：神立 信 専務理事：齊藤 和夫 会計：吉田 建彦 会報担当：寄川・田中・水上
会計振込先：静岡銀行磐田支店普通0980271 静岡県技術士協会 吉田 建彦(0538-34-5473)

2006年度第2回例会開催

2006年10月21日（土）

静岡市駿河区登呂にある静岡新聞本社を訪問し新聞ができるまでを見学しました。

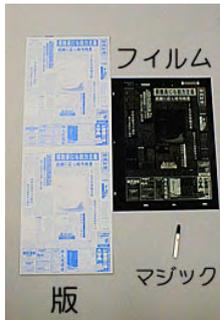


上の図は新聞ができるまでの大まかな流れです。当日は印刷局の小林広吉様、八木一男様、総務局の齋藤進様と鈴木敏弘会員に製版、印刷の工程を御案内頂きました。

【製版】

以前はアーチ型をした鉛製の凸版が使われていましたが、鉛版がとても重く労働衛生の理由から現在ではPS版によるオフセット印刷に代わっています。PS版とはアルミの平板に感光樹脂を塗布したものです。

編集された原稿はプロッタでフィルムになり、フィルムを使ってPS版を感光し刷版ができあがります。刷版はコンベアで自動的に輪転機に運ばれます。



版とフィルム



製版の様子



刷版の自動搬送

【印刷】

タワープレスと呼ばれる4色オフセット輪転機で印刷されます。



- ・両面を一度に印刷し毎時15万部を印刷します。紙の走行スピードは時速40kmです。
- ・固まり易い硬いインクを使っており固まり防止のため輪転機を廻していても、配管内のインクはポンプを常時循環して動かしています。
- ・印刷の順序は黒⇒藍⇒紅⇒黄で順次色を付けています。
- ・全自動印刷ですが紙が途中で切れた場合等のトラブル発生時には、メンテナンス担当の人間が処置を行います。

紙はロールの形で製紙会社から運ばれます。



- ・ロール紙は1本が1.2トンあり約6.5万部（4ページ換算）を刷ることができます。
- ・運び込まれたロール紙は空調の効いた立体紙庫に搬入されます。紙庫は約3日分のロール紙を保存することができます。
- ・紙庫から輪転機へは自動搬送機（AGV）で搬送されます。AGVは床下のガイドワイヤーを辿って動きますが障害物を察知すると自動的に停まります。
- ・トラックで運ばれたロール紙は受け入れ、紙庫への保管、輪転機への搬送、輪転機への取り付けが全て自動で行われます。

【装置設備】

建物、免震構造

災害時特に地震の際にも新聞を出し続けることを重要視しています。建物は免震構造で大成建設の研究対象となっています。その上輪転機にも独立の免震防振装置が施されています。



右端の建物で新聞の印刷をしています。
10年前に建築されました。



建物の免震設備



輪転機の防振設備

消火設備

イナージェンガスによる消火システムを備えています。このガスは適度に酸素を含み火は消すものの人を窒息せしめることが無いようになっています。

発電設備

自家発電のためのガスタービンを持ち、外部からの電力の供給が止まっても2ユニットの輪転機を動かすことができます。

ここまでの写真は静岡新聞社ホームページから許可を得て転載しました。<http://www3.shizushin.com/printing/>

【その他】

・2006年カラーコンテスト

本年、世界中の新聞の印刷技術を競うコンテストがありました。200を超える会社が参加し2か月分の新聞を審査するという厳しいものでしたが、静岡新聞社は見事トップ50にランクされることができました。

・質疑応答

質問： 輪転機の色ずれの管理は？

回答：新聞紙の最下部に小さなダイヤモンドの印がしてあります。これを基準に輪転機の色ずれを管理している。0.3mmズレたら輪転機が自動的にこれを検出し、機械的に修正するようコントロールしています。

質問： 設備のメンテナンスは？

回答：自社でメンテナンスを行っており稼働開始以来9年ほとんど故障しておらずメーカーを呼んだことがありません。大きなメンテナンスをしたこともありません。

・所感

免震構造を見学初めからかなり強調されておられました。当初は社会的責任や大成建設との関係からのことと思いましたが神戸新聞のエピソードを聞きもっと切実な理由であることが解りました。神戸新聞は阪神淡路大震災の際、数日間新聞を発行することができずその際の部数落ち込みが10年経った今でも回復していないそうです。

地方紙としては国内最多の発行部数を誇る静岡新聞の全てがここで印刷されています。当然ですが膨大な量を短時間で印刷しています。機械化されて人は少ないものの時間ロスが許されない緊張感が感ぜられました。

輪転機が動いている場面は映画やテレビドラマでよく使われます。同社も映画などで見るものと大きく異なることはありませんが現物を前にするとそのスピードと迫力には圧倒されます。また天井付近のレールの中を川のように切れ間なく流れ続ける新聞、ロール紙の重量感、これらも文字通り百聞は一見に如かず。1、2ページに見聞きしたことをまとめましたが、正にここで多量の新聞が短時間で作られている実感を伝えることはできません。



質疑応答の様子



静岡新聞本社玄関前にて

【技術のさんぽみち】

【No. 1】 技術士「総合技術監理部門の実践手法と資格取得の秘訣」

ー総合技術監理的手法による問題発見と問題解決の実践ー

五味 道隆 会員（電気／電子、総合技術監理）

はじめに

以前、会報N0115に木村会員から「受験対策を主にした体験」が報告されています。今回、私は少し視点を変えて「総合技術監理の実践手法と資格取得の秘訣」についての考えを述べます。

1) 総合技術監理が必要とされる背景

近年、科学技術の巨大化・総合化・複雑化が進み、科学技術の恩恵が浸透する一方で、影の側面の影響が大きく広範囲に及んでいます。

技術士には科学技術業務全般を俯瞰的に把握して総合的に監理していく「総合技術監理能力」と「高い倫理観を持つこと」が求められています。（図1参照）

2) 総合技術監理に必要とされる基本的な項目

(1) プロフェッショナルとしての高い倫理観

(2) リスクマネジメント能力

(3) 5つの管理技術

・経済性管理、・人的資源管理、・情報管理、・安全管理、・社会環境管理

(4) 国際化対応能力

総合技術監理の要素としてのこれらの項目は青本注1には系統的によく整理されています。

3) 総合技術監理の実践

技術士は、総合技術監理の資格の有無にかかわらず、青本の基礎理論を身につけ、日常の業務で実践することが求められ、また、その実践は技術士として必要不可欠です。

日常の実践でふさわしい力がつき、技術士会の実施する試験に合格可能となります。

4) 総合技術監理の合格への秘訣

青本の学習及び技術者倫理のケーススタディに加えて、次の3点の実践が重要です。

(1) 日常の技術業務での総合技術監理的視点での業務実践

(2) 社会の話題になっている技術的事項について、総合技術監理的視点での考察実践

(3) 自己の業務について常に問題意識を持ち、リスクマネジメント手法に沿って、問題発見と対応策の積極的な実施に当たる。

基礎を固める正しい知識の習得と日々の実践の両輪が総合技術監理能力養成の秘訣です。

5) 問題発見と対策立案（総合技術監理技術士としての実践の一手法）

上記の(1)、(2)の実践手法は各位にゆだねることとして、ここでは、(3)の問題解決手法について述べます。

どのような現場でも常に問題を抱えています。

問題発見と解決策立案は下記の(1)から(4)の手順で行います。（図2参照）

(1) あるべき姿（目標）を設定する。

現状からの出来る出来ないをいきなり考えずに、まず、「本来あるべき姿」を考えます。総合技術監理の基本である俯瞰的な視点で観察を行うことが基本で、究極の目標である理想像を設定します。

(2) 現状の姿を捉える

現場、現実、現物を確認し、事実をしっかり捉えます。

直接確認できない場合はヒアリングを行います。ただし、「必ず事実を抽出する」ことです。やらせ、強制、誘導は論外です。答えを誘導せず、真実に到るようにリードします。

(3) 問題点の抽出

あるべき姿と現実の差異が抽出できれば問題点が把握できます。

(4) 問題解決の方策

- ①まず、現実の立場を少し離れて、総合技術監理技術士に必要とされる俯瞰的視点を用い、現状と目標の差異を埋める方策を複数立案します。
- ②各方式について、総合技術監理の5つの基本要素の視点で現実の立場に戻り実現の可能性を比較検討します。
- ③理想の目標をすぐに実現するか、今は目標を少し下げて妥協し、理想実現を将来に回すべきかの判断を行います。
- ④品質かコストか等のトレードオフで解決策の選択に迷う場合の判断基準は、「あるべき姿により迫るものはなにか」ということです。
- ⑤あるべき姿に迫る方策を検討せずに、現状から実現可能な方策の検討に入ると理想目標がぼやけて、必ず後で(将来)手戻りが出ます。「あるべき姿」をしっかり捉えて「総合技術監理」的視点で判断すれば必ず問題解決に至ります。

最後に：

日常の技術業務の中で常に問題意識を持ち俯瞰的視点で問題の発見と問題解決に当たる姿勢が「総合技術監理」の実践の秘訣です。各位のお立場で種々の考え方はあろうかと思いますが私の考え方が議論のきっかけになり、少しでも諸兄の参考になれば幸いに思います。

注1：青本：「技術士制度における総合技術監理部門の技術体系」 (社) 日本技術士会

図1. 総合技術監理が必要とされる背景 図の作成に当たっては「青本」と「科学技術白書」を参考にした。

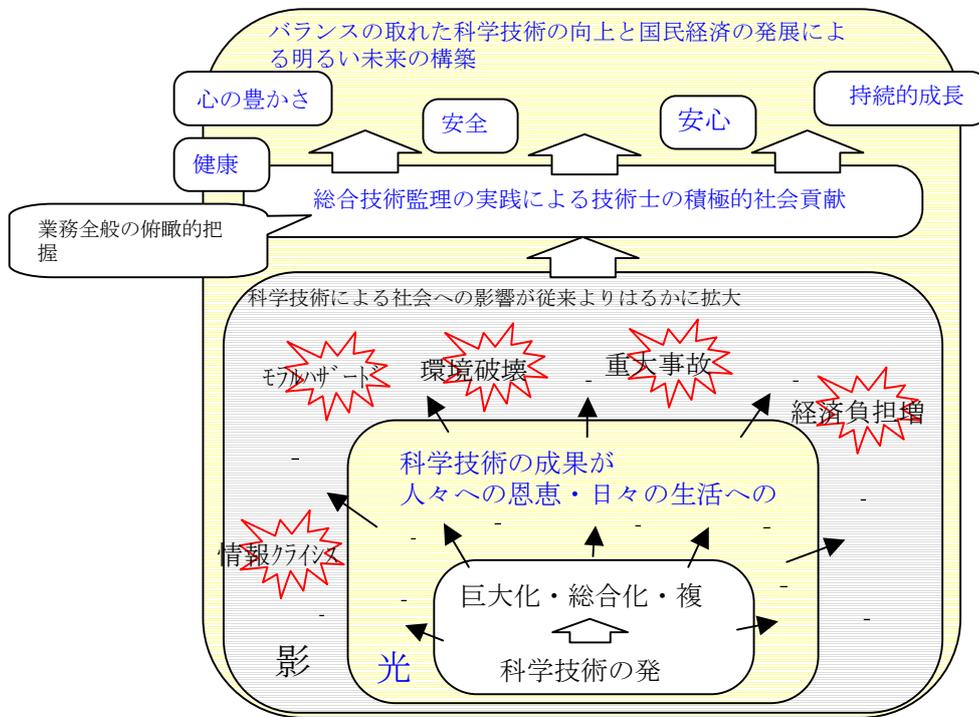
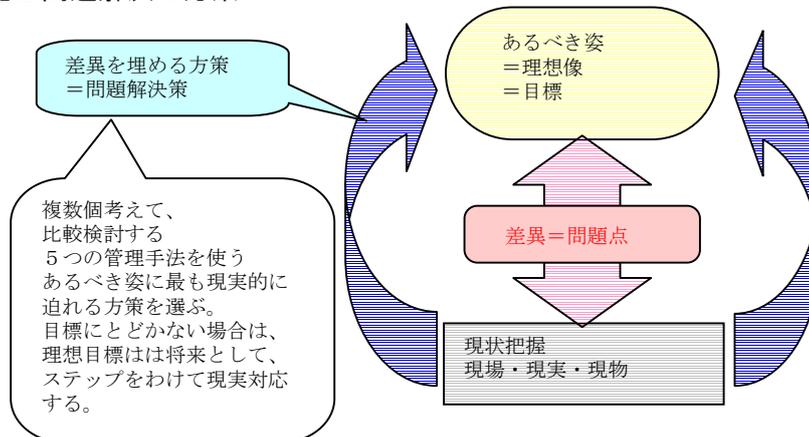


図2. 問題発見と問題解決の方策



1. はじめに

大型画面の普及など映像、音響メディアの発展に伴う高画質、高音質化、更には地上デジタル放送への移行など、家庭の内外においてAV視聴環境が大きく変わりつつある。また、立体オーディオ再生など、臨場感を確保するため、大音量、広帯域で視聴されることも多い。大きな音を再生して、部屋の外側、内側で問題を発生させないためには、建物および部屋の音響性能が適切でなければならない。つまり、外部に対しては必要な遮音性を確保し、内部では音質や響きに障害がないようにしなければならない。最近、住宅のみならず、公共の建物でも、使用開始後、音の問題が発生し、何とかして欲しいという相談が意外に多い。部屋を作る前に十分検討して、手を打っておけば比較的スムーズに対応できたものが、事後になったがために十分な修復が不可能で、その割りにコストがかかるといった事例がかなり見られる。ここでは、小さな空間の音響性能を考える上でのポイントを、上記の外部と内部についてまとめてみたい。

2. 外部に対して・・・遮音性能

スピーカー（音源）の振動は、その周囲の空気を振動させ、この空気の振動が耳に到達すると音として知覚される。この空気の振動は、同時に壁、床、天井などの界壁を振動させ、共通の界壁に接している隣の部屋へ音となって放射される。このような経路で伝搬する音を、空気伝搬音と呼ぶ。一方、建物の構造体を伝搬した後、音として放射されるものを、固体伝搬音と呼び、音源から直に躯体へ入射した振動もこれに含まれる。後者は、離れた部屋へも躯体をとおして伝搬し、音として放射されることになる。遮音を考える場合は、この両方への対処が必要であり、実現するための手段として図1に示すような、浮構造という遮音構造が採用される。振動の伝搬を防振ゴムなどで防止しながら、重量のある構造や、多重構成の界壁で空気伝搬音を減衰させる。

十分な遮音性能を実現するには、材料の選定や組み合わせといった設計品質だけではなく、施工の良否が大きく影響する。経験豊富な施工者を選ぶことも重要な要因となる。

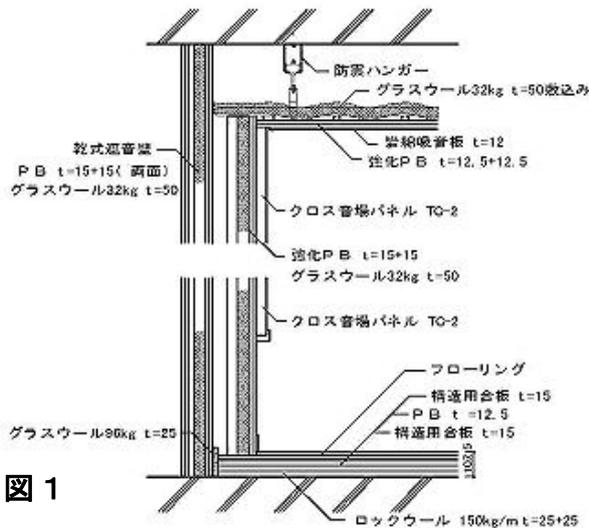


図1



写真1

3. 内部に対して・・・室内音響

小さな容積の空間は、室内音響設計の観点からは、大空間より難しい面もある。特に、再生される音の波長と同程度、又はそれよりも小さなディメンジョンの部屋では、音の波動的現象による音響障害などが発生しやすくなる。部屋の形状、境界面の性状、材料配置などが音質を決定する重要な要因となる。音響障害を回避し、良好な音質を実現するためには、まず部屋の3辺の寸法比を適切にし、ブーミングなど低音域での共鳴を防止すると共に、音源の種類や位置などに応じて拡散面や吸音面を適切に配置する。AVルームのようにスピーカーを音源とする場合は、直接音と反射音の干渉を避ける配置とし、楽器練習室などでは吸音/反射を分散させる配置が選ばれることが多い。いずれにしても専門的な知識が必要であり、音響コンサルタントへの事前相談が望まれる。写真はこのようにして設計されたAVルームの例である。

4. まとめ

日本家屋は軽量な木造が多く、音響的には不利となりやすい。自由にAVを楽しむには、音の性質を知り、しっかりとした音響設計を行うことが大切である。

(以上)

【No. 3】POLESTAR北本技術士事務所繁盛記
北本 達治 会員 (化学、総合技術監理)

技術士になって一番知りたいのが、技術士事務所をやると、どの位儲かるのかということでしょうか。私も、これまでに色々と情報をおつめてきましたが、そんなに儲けているという本当っぽい話はありません。

私は、日本技術士会で化学部会長を務め、理事・財務委員長を勤め、神奈川県技術士会でも理事・業務委員長をやっています。この4、5年はボランティアと割り切っていますが、ひどい時は三島の自宅から、横浜、川崎、東京のいずれかに週のうち4、5日は出かけています。地元の方は、時々中部の化学部会のために名古屋に行くこと、静岡県技術士協会の行事があると静岡、たまには浜松まで出かける程度でどちらかという、東を向いた生活をしています。

定年退職してすぐ、1998年に技術士事務所を開設しました。技術士事務所の命名には少し時間をかけました。結局、頭書の名前になったのですが、POLESTARというのは北極星のこと、北の大本であるのと、コンサルタントたるものは、正しい方向をしっかりと示すものでありたいという意図をこめたものです。これにあわせて、CIマークも作成しました。バビロンの楔形文字がまだ象形文字の時代の星を示す文字を使っています。



現役時代は大企業での技術屋としてもっぱら会社のために働いてきたので、POLESTAR北本技術士事務所のこれからは、人の役に立つことをやりたいという目標をたてました。方向としては、二つを考えました：中小企業の技術支援、海外NIES諸国の技術支援です。

後者については、JAICAの登録をしました。程なく、連絡があり、インドの磁石メーカー指導の話がありました。早速、神谷町にあったJAICAに事務所に行き、若い担当官にあつて話を聞きました。非常に親切な対応でしたが、自分は磁気記録材料は経験があるが、焼結したバルクの磁石はどうも専門でないという、先方はそうですねと気持ちよく納得し、また関係のある仕事が出たら連絡しますと行ってきて、その日は帰った。その後、1、2ヶ月たっても音沙汰がないので、アポをとって訪ねて話を聞くと、手ごたえなし。その後、仕事の話は全くこなかった。この教訓は、最初の仕事は断わってはいけない。何とか、自分の技術範囲といえるところであれば、勇気を持って、手を挙げて、走りながら、必要な情報を集めながら、仕事をこなすものだという事です。

中小企業の技術指導の方は、東京で日本技術士会による合格者歓迎会にでた事からはじまる。そこで神奈川県技術士会の故佐藤主計先生：横浜国大のOBで合唱団のリーダー、お年を感じさせない偉丈夫から声を掛けられて、神奈川県技術士会に入会しました。

今でもそうですが、神奈川県技術士会は、業務指向です。起業家支援、知財支援、海外業務支援、PL、ISO9000・ISO14000支援などの業務分野を特定したプロジェクトが活動していました。毎月、第一土曜日の午後に情報交流会も開いており、当日の午前中の理事会での話題を会長、各委員会委員長、上記プロジェクトの会長たちが直接報告し、業務委員長からは業務案件の紹介もある。静岡県技術士協会にもでたのですが、こういう雰囲気の違いから神奈川県技術士会を本拠に活動をするようになっていきました。

神奈川県技術士会では、起業家支援センターに入りました。まもなく、赤字で県技術士会本体への年10万円の会費が払えない苦境のこのセンターの会長が辞任される事になり、後任を頼まれました。倒産会社の社長よろしく、一年の猶予をお願いして、顧客開拓：神奈川県商工労働部、神奈川中小企業センター、川崎市産業振興財団、横浜市、藤沢市、横須賀市、商工会議所、中小企業団体中央会等をまわりました。どこでもというわけではありませんが、2度、3度と顔を出している内に手ごたえのあるところが出てきます。そういうところへ更に足しげく顔を出して、3、4ヶ月も続けるとぼちぼちと仕事がもらえるようになりました。そのうちのひとつからは毎週1回丸一日の技術相談員の仕事を貰えて、4人のメンバーが交代で勤務できるようになりました。その他でも、ぼちぼちと仕事の開拓が進み、一年後にはめでたく10万円の家賃を払えるプロジェクトに成長させることができました。

そうこうしているうちに今度は、業務委員長をやらされることになりました。これは、前の業務委員長のやり方に対して何度か理事会の席で正論を申し上げていたためのものでした。

行きがかり上、断わりきれず、これまでの人生で一番縁の薄かった営業部門の責任者である業務委員長を引き受ける羽目になってしまいます。

丁度この時期に、日本のSBIR補助金制度を県内企業にPRする仕事を県から受注しました。これは、複雑多岐に渡る助成金の種類とその仕組みを勉強する機会として非常に有効でした。また、行政と協力して仕事をしていく上で、個別の中小企業を数多く知っている事が非常に重要ですが、SBIRの説明・相談会という仕事がこのための非常によい手段となりました。

こんなことが縁になり、現在の活動分野は、中小企業の技術支援が主体。また、個人事務所での仕事よりも、技術士会の組織の中での業務開拓が多くなってきているこの頃です。

最後に、仕事への取り組み方で、大事なものは、自分で動く事です。よく、会のミーティングにも出てこない人、出て自分から動こうとしない人がいます。口をあけて待っていれば、仕事が降ってくるような世界ではないので、自分が動く事。顧客には数十万円儲けさせるコンサルをして、1万円の報酬をもらうといった姿勢が不可欠。仕事の紹介は、紹介する方も、顧客に対して信用をかけているので、よく知らない人には大きな仕事は紹介できないものです。常日頃から、自分を知って貰う活動の積み重ねが仕事になって帰ってくる世界。折角築いた信用も立った1回の失敗で値に落ちてしまう世界でもあります。

こんな事が技術士事務所繁盛の最低条件ということでしょうか。

(以上)

理事会報告

第4回常任理事会

日時：平成18年10月21日（土）10:45-11:30
場所：ホテルセンチュリー静岡1階ロビー
出席者：吉澤、斉藤、吉田、寄川、田中、水上
議題

- (1) CPD行事参加票について
- (2) 第3回例会（忘年会）の素案検討
- (3) 会計からの報告
- (4) 会報の編集について
- (5) 会員消息

連絡事項

- (1) ニュービジネス協議会から「ビジネスフォーラムin浜松」の案内
- (2) 環境保全協会「環境法令研修」の案内

その他

- (1) 静岡文化芸術大学サステイナブルデザイン研究会主催の講演会
松本会員「風と風車の話」

第5回常任理事会

日時：平成18年11月25日（土）12:30-13:45
場所：「ブケ東海」3F さくらの間
出席者：神立、斉藤、吉田、田中、寄川、野々垣
議題

- (1) 当協会の活性化について
 - ・当協会の活性化（野々垣会員からの提案）
 - ・当協会のPR（佐藤仁一会員からの提案）
- (2) 第4回例会（西部地域担当）の素案検討
- (3) 会計からの報告
- (4) HP検討委員会からの報告
- (5) 会報の編集について
- (6) 年度末に向けてのまとめ

その他

- (1) 中部支部との連携、名称
「静岡県技術士会の静岡県技術士協会における位置づけ」、「日本技術士会中部支部における静岡県技術士会会員の役割分担表」について。

神立会長より「第5回常任理事会において野々垣会員、佐藤仁一会員のお二人より、以下の提案がありました。事務局としては今後の活動の中でどのようにすべきか検討してまいります。他の皆さんも協会活動に関するご意見等理事会宛にお寄せください。」

野々垣さんのご意見（要約）：子供や学生の中で、科学離れや工学部離れが進展している。技術振興の一翼を担う技術士として将来を危惧しており、当協会としても対応できる方策を検討・推進してはどうか。

佐藤さんのご意見（要約）：県や市町からの監査業務等を当協会が受けて実施している実績がある。このようなことは、当協会における今後の運営の重要な柱と思われる。このために、関係自治体、関連支援機関等に積極的に当協会をPRしてはどうか。

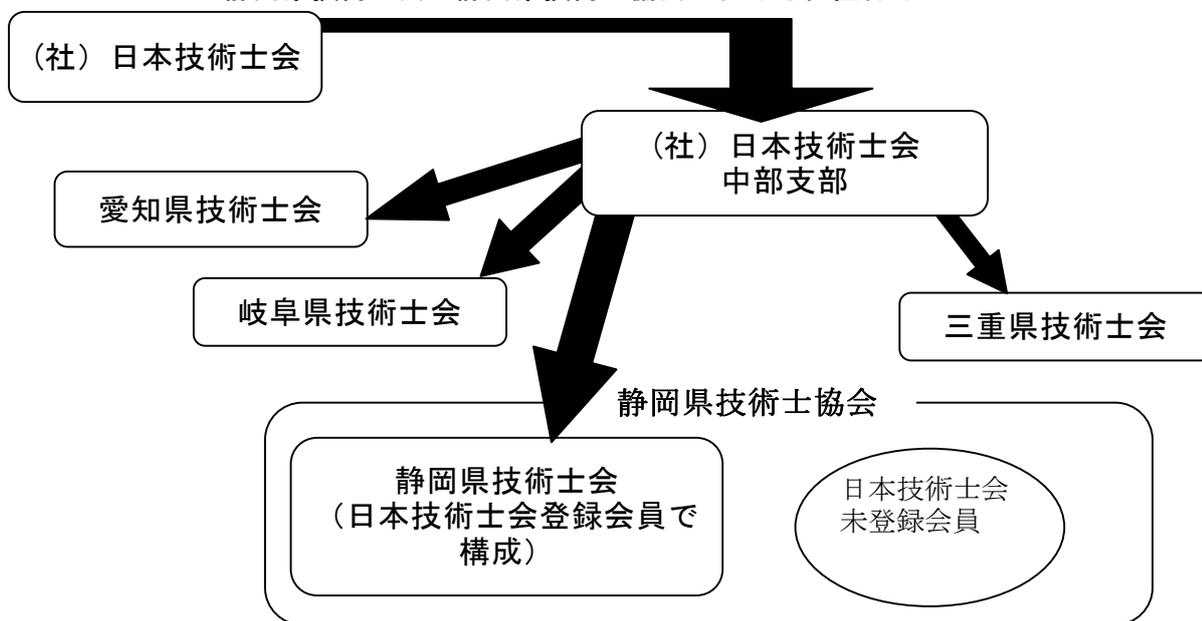
平成18年5月11日付けで静岡県技術士会が（社）日本技術士会より正式承認されました。（会報NO.114で報告済み）

協会の活動並びに日本技術士会中部支部とのお付き合いは従来と変わっておりません。

参考までに「静岡県技術士会」の静岡県技術士協会における位置付け等を図にしてみました。

- ①静岡県技術士会は日本技術士会登録の会員で構成されています。
- ②静岡県技術士会の静岡県技術士協会における位置付けを図にしてみました。
- ③日本技術士会中部支部における活動に役員並びに委員として表に記載の諸氏（静岡県技術士協会会員の中から日本技術士会に入会されている方々）にお願いし、参加いただいております。
- ④静岡県技術士会の会長は「代表幹事」と呼ぶことになり従来通り静岡県技術士協会の会長が兼任します。
- ⑤更に静岡県技術士会代表幹事は中部支部の役付けでは副支部長ということになっています。

静岡県技術士会の静岡県技術士協会における位置付け



(注意) 日本技術士会未登録会員は静岡県技術士会会員を名乗れない。

日本技術士会中部支部における静岡県技術士会会員の役割分担表

支部役員

1	副支部長	神立 信 (静岡県技術士会代表幹事兼任、事業委員会委員兼任)
2	幹事	木村 芳正(業務開発委員会委員兼任、本部防災支援委員会委員兼任 支部防災支援委員会委員長兼任)

支部委員会等委員

1	事業委員会	神立 信	5	業務開発委員会	木村 芳正
2	広報委員会	(該当者なし)	6	修習技術者支援委員会	五味 道隆
3	技術委員会	岡井 政彦	7	防災支援委員会	木村 芳正(委員長)
4	試験事業委員会	中田 洋輔			仁科 憲

本部特別委員会委員

1	防災支援委員会	木村 芳正
---	---------	-------

会員消息

《退会者》

- 1 房本 章 会員 (化学 9月16日付け)
- 2 加藤 幸男 会員 (機械 10月18日逝去)
第3代会長 (1970年) 及び第9代会長 (1983年)
を歴任
「浜松モーターサイクル戦後史」「浜松市民の木」等の著書あり

《入会者》

- 1 氏 名 川瀬 泰裕
生年月日 [REDACTED]
技術部門 建設部門 (土質及び基礎) 20381号
勤務先 (株)富士和 沼津支店
連絡先 [REDACTED]

趣 味

- ①水泳：週に1度プールで特訓中。なかなか上達せず、指導者を捜しています。
- ②山歩き：年に数回、妻と近くの山に行きます。富士山には2年前、最近では、大菩薩峠、天城山、金太郎山 等です。
- ③スキー：学生時代スキー部 (アルペン) に所属。最近は温泉のほうがよくなりました。

- 2 氏 名 江口 雅章
生年月日 [REDACTED]
技術部門 機械部門 修習技術者2005年度合格
勤務先 NTN (株) 商品開発研究所
連絡先 [REDACTED]

趣 味 パソコン、LAN/WAN等のネットワーク運用

《勤務先の変更》

- 1 氏 名 内田 弘 会員 (建設)
新勤務先 (株)中野地質 (焼津市西小川)
連絡先 [REDACTED]
- 2 氏 名 五味 道隆 会員 (電気電子・総合)
新勤務先 (株)東峯技術コンサルタント中部営業所
連絡先 [REDACTED]

《メールアドレスの変更》

- 1 氏 名 木村 芳正 会員 (建設・総合)
新アドレス [REDACTED]

《休会者》

申請なし



会費納入のお願い

会計担当

2006年度の会費を未だ納入されていない方が、20人弱おられます。会の運営に支障をきたしますので、早急に下記口座に振り込みいただきますようお願い申し上げます。

会費振込先：静岡銀行磐田支店 普通預金0980271
静岡県技術士協会 吉田建彦
一般会員： 8,000円
名誉会員： 4,000円
賛助会員： 10,000円

なお当協会の会計年度は、4月～翌年3月です。2006年度の会費はどんなに遅くとも2007年3月末日までに、また2007年度の会費は、2007年4月1日以降に納入ください。3月時点で、「翌年度会費のつもりで、振り込んだ」旨の例がこれまでもありましたが、通帳には振込んだ方の意図 (何年度会費なのか) がプリントされるわけではありませんので、1月～3月頃の振込みは会計係としては、何年度の会費なのか検証が必要になります。そうした煩雑さを避けるために、3月末日以前の振込みは、次年度分とは処理しない方針で進めたく、次年度分は4月1日以降納入 (2007年度分は、2007年4月1日以降) にご協力くださいますようお願い申し上げます。4月の総会に出席される時の納入でもかまいませんが、4月～5月で納入ください。

会計担当理事 吉田 健彦

編集後記

前号からはじまった技術の散歩道、今号は編集委員の想定を越える力作ぞろいのため紙幅を拡大することと致しました。原則的に編集委員より寄稿のお願いをしておりますが我と思わん方は原稿をお持ち込み下さい。

11月25日の理事会では佐藤会員、野々垣会員から会の活性化に関する提案がなされました。皆様の意見を理事会までお寄せいただきますようお願いいたします。